

クローズアップ

『青年部会と後継者育成』

広島県鉄構工業会・青年部会の足跡

【第2回】



「新しい形に」

山本泰徳・広島県鉄構工業会理事長の強い意志を受けて、青年部会は15年度の

通常総会で会則の会員資格を「後継経営者で、原則45歳以下」から「若手経営者・若手技術者社員であつて、原則45歳以下」へ変更した。総会の席上、岩土英爾・部会長(当時・河野鉄工工場長、現・社長)は「リニューアル青年部会は、当組合が積極的に取り組んでいる大学との勉強の場、『鉄骨製作部会』に原則全員参加し、大学の先生方の指導および交流のなかで技術を中

リニューアル青年部会決起集会で岩土部会会長があいさつ

心にレベルアップを図る。実施予定の鉄骨精度測定指針(改定)研修会の開催など、青年部会として技術を中心に若手技術者に役立つ研修を企画・開催する」と発表した。さらに「社員の方は参加意欲があつても多忙で行事に参加するための時間を確保するのは大変だと思つた。そうした負担を減らすために、あらかじめ年間日程を定め、社員の方でも参加しやすい環境を整えたい。会員が活動に参加することで、日々の業務に今まで以上にやりがいを感じ、誇りが持て、同時に積極的なコミュニケーションを図れる青年部会を作りたい」と方針を述べた。



リニューアル青年部会決起集会

その後、リニューアル青年部会は「鉄骨精度測定指針(改定)研修会」や「水性さび止め塗料の実演見学会」など親会事業のサポート活動のほか、新たに「柱脚施工の勉強会」を15年度に開催する。この「柱脚施工の勉強会」は、柱脚の施工で施工誤差、現場墨だしミス、ベースプレー

の加工ミスなどによる取付位置がズレることが多いなかで、柱脚の見積もりを含めてアンカーボルトの高精度施工、簡素化、工期短縮など理想の柱脚工法を探ることを目的としていた。第1回では、各社が独自開発した施工方法や詳細な外注費をオープンにするなど貴重な基礎情報を集約した。第2回については今後、周辺情報を確認後に開催することになっている。翌16年度には、H形鋼など材料の製造現場を見学して、日ごろの業務に役立てるため、東京製鉄岡山工場

の見学会を実施した。会員(実末和也)

技術的向上を 目指した事業を開始

理事長は「広島県鉄構工業会は10年後、20年後を担う人材の育成を目的に、全国に先駆けて青年部会の組織を改編した。今日集まった青年部会の会員には研修などを通じて多くのことを学び、吸収して、企業、組合の中核を担う人材に成長してほしい」と期待を話した。



「鉄骨精度測定指針(改定)研修会(上)」「水性さび止め塗料の実演見学会(下)」

りアンカーボルトの取付位置がズレることが多いなかで、柱脚の見積もりを含めてアンカーボルトの高精度施工、簡素化、工期短縮など理想の柱脚工法を探ることを目的としていた。

12名が参加し、工場概要の説明を受けた後、製鋼工程中形工場を見学した。同事業を振り返り、岩土部会長は「質疑応答では見学者の質が表れるというが、今回の質疑ではしっかりと勉強したうえで質問をしたため、広島県の青年部会をそ